

江野澤 よしかつ えのさわ吉克県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13 電話043(227)7411

西内河根場線と中野畑沢線

本年度9千2百万円の予算計上



予算委員会で質問する江野澤県議

6月県議会の一般質問に登壇したばかりの袖ヶ浦市選出の江野澤吉克(えのさわ・よしかつ)県議は、引き続き開かれた予算委員会にも登壇し、当面する課題を取り上げ、県執行部の対応をただすなど、精力的に議会活動を展開しました。

この中で、江野澤県議が本年度事業着手される予定

補正で予算化

江野澤委員 都市計画道路西内河根場線及び中野畑沢線については、先日の私の一般質問で、今年の9月ごろから事業着手するとの答弁をいただいたところで、この路線は、地元からの熱望の表れとして、市が概

の地元の都市計画道路・西内河根場線及び中野畑沢線について質問したところ、6月補正で約9千2百万の予算を計上、一部で用地買収などに着手することが明らかになりました。そのほか、鳥インフルエンザ、有害鳥獣対策などを取り上げました。江野澤県議の予算委での質疑を特集しました。

略設計を実施し、さらには境界立会いを行うなど、積極的に事業化に向けた地ならしを進めてきました。

このように、事業推進が図られる状態までできていますので、できるだけ予算をつけて早期の完成を目指していただきます。と考えています。そこで、伺います。都市計画道路西内河根場線及び

中野畑沢線について、今年度の予算ではどのような事業が予定されているのか。

都市整備部長 平成29年度6月補正予算案では、両路線に約9千2百万円を計上しており、道路詳細設計、地質調査及び用地買収を予定しています。今後も、両市の協力を得ながら事業を進めてまいります。

6月予算委員会での質疑

防疫措置の要因

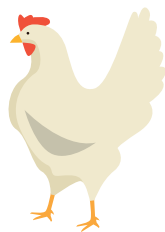
江野澤委員 3月に発生した高病原性鳥インフルエンザは、県内でも有数の養鶏場密集地帯での発生だったにもかかわらず、他の農場への感染拡大もなく、早期に収束させることができたのは、県をはじめ、地元市、国、自衛隊、関係団体が一致団結して防疫対応に当たった成果だと思えます。

実施したということですが、是非とも今後の防疫対策に生かしていただきたく、伺います。計画通りに防疫措置を終了できた要因は何か。

農林水産部長 主な要因としては、

- 防疫計画が事前に作成されたこと
- 20万羽規模の発生を想定した資材が備蓄されていたこと
- 県、市町村、国、関係団体を対象に、毎年、防疫演習を実施していたこと
- 県の防疫活動従事者名簿の整備や、自衛隊第1空挺団との派遣協議を事前に実施しており、円滑に動員できたこと

などが考えられます。



防疫資材の調達

江野澤委員 備蓄量を超える資材が必要になった場合、どのように対応するのか。

農林水産部長 資材の調達が必要になった場合に備え、民間団体と防疫業務に関する協定を締結しているほか、流通在庫を迅速に調達できるよう、取り扱って

者事前にリストアップしています。

また、国においては、各都道府県の備蓄在庫を把握し、提供できる仕組みを構築していることから、さらに資材が不足する場合には、国及び他県からの提供の斡旋を要請することとしています。

被害の補償

江野澤委員 発生農場及び周辺農場へは、どのような補償がなされるのか。

農林水産部長 発生農場には、殺処分した鶏や汚染物品として処理した卵や飼料などについて、家畜伝染病予防法の規定により、評価額の全額が手当金として、国から交付されます。

また、周辺農場には、売上額の減少や出荷の遅れに伴う飼料代などに対し、国と県により全額補償されます。

要望

発生農場及び周辺農場については、一刻も早く補償が実施され、早期に発生前の状態に回復できるようお願いします。

高病原性鳥インフルエンザ 教訓を今後の対策に生かせ!

●袖ヶ浦市と県政に関するご要望をお寄せください。

えのさわ吉克 県議事務所

〒299-0236 袖ヶ浦市横田413-9 TEL.0438-75-8881 FAX.0438-75-8882

有害鳥獣捕獲の補助金増額

医療機器の整備を要望



執行部の答弁を聞く江野澤県議

ライフル銃の使用

江野澤委員 狩猟や有害鳥獣捕獲を行うに当たり、ライフル銃には、どのような規制がなされているのか。

環境生活部長 本県においては、昭和22年の告示により、銃の種類や口径の大きさにかわらず、ライフル銃の使用を禁止しています。

江野澤委員 ライフル銃に係る規制の解除について、

県はどのように考えるのか。

キヨンの捕獲体制

江野澤委員 キヨンは、有害捕獲はできるものの、一般の狩猟者が狩猟をするにはできません。これはキヨンが、狩猟をすることのできる「狩猟鳥獣」に指定されていないためです。キヨンの捕獲を強化し、生息数を少しでも減少させるためには、指定されることが必要です。キヨンの狩猟鳥獣化に

向けて、県はどのように取り組んでいるのか。

環境生活部長 キヨンの狩猟鳥獣化への指定については、県としても平成24年度から国に対して要望してきたところです。

その結果、平成29年1月に開催された中央環境審議会自然環境部会野生生物小委員会において、「キヨンの封じ込めや根絶に向けた体制とその運用が確認された場合には、速やかに新規指定の検討を行う」ということが了承されました。



そこで、県としては引き続き、国に要望をすることにも、早期に指定が行われるよう、キヨン対策の体制整備

備などの取り組みを進めてまいります。

要望 生息数の増加が著しいキヨンの有害捕獲に当たっては、威力のある空気銃であれば使用が

可能となるよう検討いただきたい。

市町村や猟友会などと連携して、ぜひ多方面における抜本的な対策を講じていただきたい。

整備予算約15億円

江野澤委員 県立病院の医療機器の整備について伺います。今年度の医療機器の整備予定はどうか。

病院局長 今年度の医療機器の整備に係る予算額は、14億7千万円を計上しており、前年度から1億8

千万円増額し、必要な整備を行います。

主な機器としては、がんセンターにおいて、内視鏡手術用ロボットである「ダヴィンチ」を、循環器病センターでは「心血管撮影装置」を購入することとしています。

ちばアクアマランへで要望

江野澤委員 ちばアクアマランが、地域経済の活性化、千葉の魅力発信に貢献していることは明らかです。6月補正予算で、アクアマランに計上されている経費は、具体的に何を想定したのか。

教育長 前回以上に「千葉の魅力」と「おもてなしの心」を、国内外の皆さまに感じていただけるよう、「チーム千葉」の力を結集し、ランナー、観客、ボランティアなど、すべての関係者が一体感を味わい、思い出に残る大会を目指して準備を進めます。

次回大会は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック向け、弾みをつけるための大切な大会と考えられています。

江野澤委員 次回大会に

江野澤委員 医療機器の点検やメンテナンスへの対応は、どのように行っているのか。

病院局長 医療機器の定期点検や故障した際の修理等については、今年度も4億8千7百万円を予算措置し、適切に対応することとしています。

また、医療機器の操作や保守点検を行う臨床工学技士を、この5年間で5名増員し、現在19名を配置しており、今後さらに4名の増員を予定しています。

要望 今後とも、県民が安心して質の高い医療を受けられるよう、医療機器の整備を計画的に進めていくための必要な予算の確保と、その点検等を行う専門職の人員配置を引き続き行うよう要望します。

江野澤委員 外国人ランナーに対応するため、通訳ボランティア確保について、どのように考えているのか。

教育長 次回大会では、より多くの外国人ランナーをお迎えできるよう、通訳ボランティアの確保に向けて、県内の大学に協力依頼するとともに、ホームページ等により、広く募集するなど、万全を期してまいります。

要望 地域経済の活性化のためにも、県を挙げて大会を盛り上げて

いただきたい。

捕獲予定数が増加

江野澤委員 有害鳥獣対策は、先の一般質問でも伺ったところですが、私にとりて大きな課題と考えていますので、さらに予算委員会でも質問することで、議論を深めていきたいと考えています。

有害鳥獣による被害を減少させるためには、担い手の確保や育成や捕獲技術の向上などの取り組みを進めていかなければなりません。捕獲の主体となる市町村への支援を充実させることも重要です。県は、市町村の有害鳥獣

捕獲事業への支援について、どのように取り組んでいるのか。

森田知事 県では、市町村が実施する捕獲事業への助成を行っているところであり、市町村の捕獲予定数の増加に伴い、補助金の増額を6月補正予算案に計上しました。

また、有害鳥獣対策に関する研修会の開催や「イノシシ・ニホンジカわな捕獲マニュアル」の作成、更には自治会による捕獲などの先進事例の情報提供など、さまざまな支援を行っています。

6月議会予算委員会に登壇

6月議会予算委員会に登壇